



共著 高橋登・山本登志哉  
発行 東京大学出版会  
A5判 / 336頁  
定価 本体4800円+税  
発行年月 2016年10月

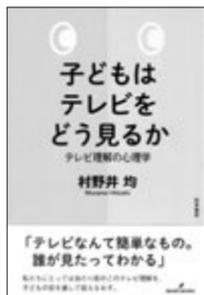
たかはし のぼる  
大阪教育大学教授。専門は発達心理学、教育心理学。著書はほかに『障害児の発達と学校の役割』（編著、ミネルヴァ書房）など。  
やまもと としや  
(財)発達支援研究所所長。専門は文化発達心理学、法心理学。「文化とは何か、どこにあるのか：対立と共生をめぐる心理学」（新曜社）など。

## 子どもとお金 おこづかいの文化発達心理学

高橋 登・山本登志哉

本書は「おこづかい」を手がかりに、日韓中越の子どもたちの親子関係・友人関係の築き方、消費社会での生き方を比較・分析したものです。お金は中立的な価値の徴表であるだけでなく、規範的な意味合いをもった文化的道具でもあります。子どもたちはどのようなお金の使い方は許されるのか、あるいは許されないのか、文化的な規範のもとで生きています。私たちは質問紙調査を行うだけでなく、四カ国の研究者が皆でそれぞれの国を訪れ、子どもの買い物の様子を観察・インタビューし、家庭で

親子にインタビューし、ミーティングを繰り返してきました。「おこづかい」をめぐる態度の違いなど、四カ国の子どもたちの姿はそれぞれ自身とても面白いので是非お読みいただきたいのですが、本書で私たちは、その上で、互いの文化を「理解する」ための方法論を提案しています。異文化と向き合う中で私たちの心を揺り動かすようにして文化が立ち現れてくる、その過程自体を理論化したのが私たちの考える「差の文化心理学」です。ぜひ手にとっていただき、ご意見をいただきたいと考えています。



著 村野井均  
発行 勁草書房  
四六判 / 228頁  
定価 本体2,500円+税  
発行年月 2016年10月

むらのい ひとし  
茨城大学教育学部学校教育教室教授。専門は発達心理学。著書はほかに『子どもの発達とテレビ』（かもがわ出版）、『学校で拓くメディアリテラシー』（共著、日本文教出版）、『教育の最新事情』（分担執筆、共同出版）、『ICT教育の理論と実践』（分担執筆、青簡舎）、『博物館情報・メディア論』（分担執筆、ぎょうせい）など。

## 子どもはテレビをどう見るか テレビ理解の心理学

村野井 均

日本では、テレビについて、誰でもわかる簡単なメディアだと思われています。しかし、海外ではメディア・リテラシー教育として、テレビの「読み方」を教えている国もあります。なぜ、日本ではテレビが簡単だと思われるのでしょうか。

そもそも、テレビ画面は平らなのに、なぜ奥行きのあるものとして読み取ることができるのでしょうか。また、視聴者はナレーション、会話、効果音といった多くの音と映像を組み合わせられてテレビを見ています。この組み合わせ方を

誰が教えたのでしょうか。さらに日本語は時制表現が明確ではないにもかかわらず、アニメには、回想や想像シーンがたくさん出てきます。子どもはこうしたストーリーを理解できているのでしょうか。

このように心理学の視点からテレビを研究すると、実はとても難しいメディアなのです。本書では子どもだけでなく高齢者の例も取り上げながら、私たちがテレビを見ることができ背景には、私たちが子どもの頃から自然に学んだ、隠れたカリキュラムがあることを示しました。